



## 概要

---

この章では、Catalyst 2955 スイッチ（以降、スイッチ）に関する次の内容について説明します。

- [機能 \(p.2-2\)](#)
- [前面パネル \(p.2-3\)](#)
- [背面パネル \(p.2-19\)](#)
- [Catalyst 2955 スイッチの電源コンバータ \(p.2-20\)](#)

## 機能

Catalyst 2955 スイッチは、Catalyst 2950 スイッチ ファミリーに属しています。Catalyst スイッチはイーサネット スイッチ シリーズであり、あらゆるイーサネット 対応装置との接続に使用できます。

Catalyst 2955 スイッチは、標準的な 19 インチ ラックのほかに産業用ラックの DIN レールに取り付けて使用するイーサネット スイッチです。このスイッチのコンポーネントは極端な温度、振動、および衝撃という苛酷な条件に耐え得る設計となっており、産業環境で使用できます。



(注) Catalyst 2955 スイッチには冷却ファンは搭載されていません。

ネットワークへのスイッチ配置の具体例については、スイッチのソフトウェア コンフィギュレーション ガイドを参照してください。

図 2-1 ～ 図 2-3 に、各種の Catalyst 2955 スイッチを示します。

スイッチの機能は、次のとおりです。

- ハードウェア
  - Catalyst 2955T-12 スイッチ — 10/100 ポート ×12、10/100/1000BASE-T ポート ×2
  - Catalyst 2955C-12 スイッチ — 10/100 ポート ×12、マルチモード (MM) 100BASE-FX ポート ×2
  - Catalyst 2955S-12 スイッチ — 10/100 ポート ×12、シングルモード (SM) 100BASE-LX ポート ×2
- 設定
  - 10/100BASE-TX ポートは、速度およびデュプレックスの設定値の自動ネゴシエーションが可能。
  - 10/100/1000 BASE-T アップリンク ポートは速度の自動ネゴシエーションが可能で、10/100 Mbps で半二重および全二重モードの動作を、また 1000 Mbps で全二重の動作をサポート。
  - 100BASE-FX マルチモード光ファイバ MM アップリンク ポートは、100 Mbps および全二重の設定のみをサポート。

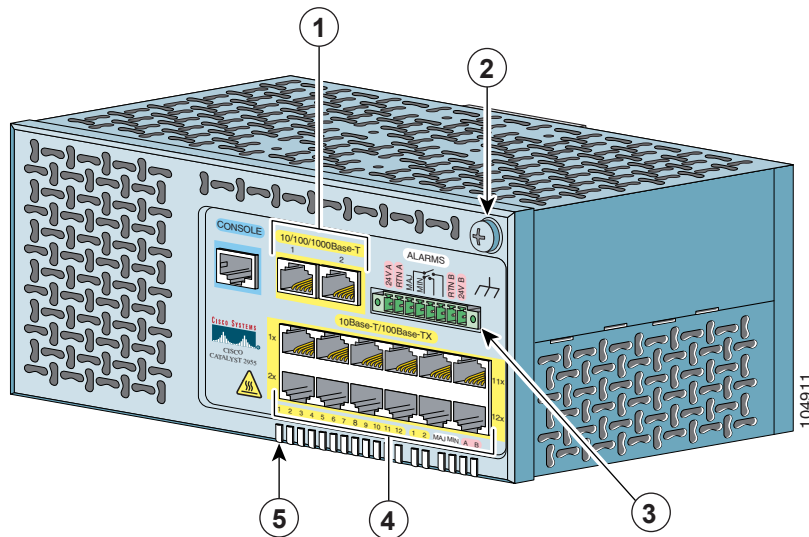
- 100BASE-LX シングルモード光ファイバ SM アップリンク ポートは、100 Mbps および全二重の設定のみをサポート。

## 前面パネル

スイッチの前面パネルには、各種ポート、LED、および電源とリレー用のケーブルコネクタがあります。

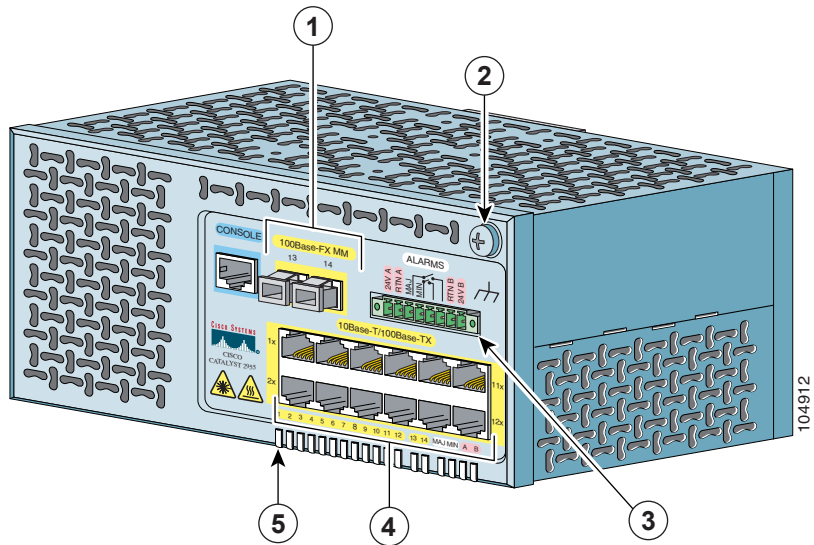
図 2-1 ～ 図 2-3 に各スイッチの前面パネルを示します。

図 2-1 Catalyst 2955T-12 スイッチ



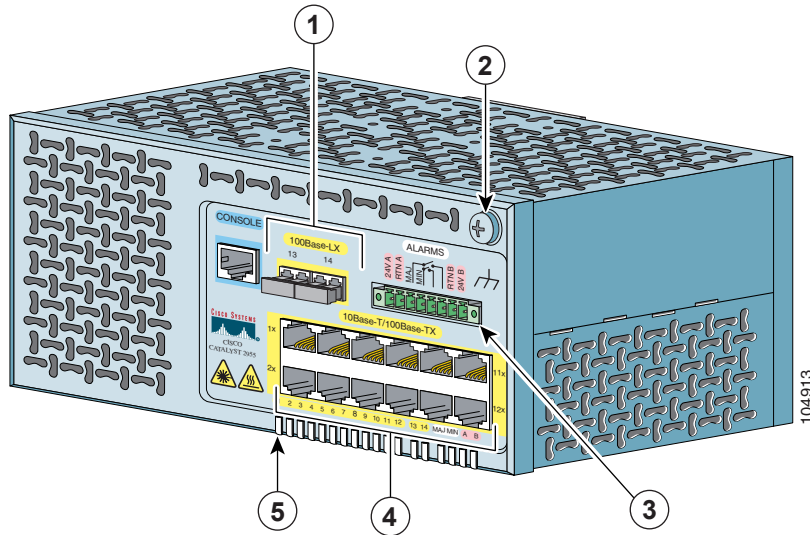
1	10/100/1000 アップリンク ポート	4	10/100 ポート
2	アース ネジ	5	LED
3	電源およびリレー用コネクタ		

図 2-2 Catalyst 2955C-12 スイッチ



1	100BASE-FX アップリンク ポート	4	10/100 ポート
2	アース ネジ	5	LED
3	電源およびリレー用コネクタ		

図 2-3 Catalyst 2955S-12 スイッチ



1	100BASE-LX アップリンク ポート	4	10/100 ポート
2	アース端子	5	LED
3	電源およびリレー用コネクタ		

## 警告ラベル

Catalyst 2955C-12 スイッチおよび 2955S-12 スイッチの前面パネルには、レーザーに関する安全上の警告ラベルがあります (図 2-4 を参照)。Catalyst 2955C-12 上の MM 光ファイバポートは、クラス 1 LED です。Catalyst 2955S-12 上の SM 光ファイバアップリンクポートは、クラス 1 レーザー製品です。

レーザーに関する安全上の警告ラベルは、光ファイバポートおよび光ファイバケーブルを取り扱うときに注意が必要であることを示しています。

図 2-4 レーザーに関する安全上の警告ラベル



Catalyst 2955C-12、2955S-12、および 2955T-12 スイッチの前面パネルには、ホットサーフェスに関する安全上の警告ラベルがあります（図 2-5 を参照）。このラベルは、スイッチの表面が熱くなっていることを示しています。

図 2-5 ホットサーフェスに関する警告ラベル



## 10/100 ポート

10/100 ポートには、RJ-45 コネクタとツイストペア ケーブルを使用します。このポートには、次の装置を接続できます。

- ワークステーション、ハブなどの 10BASE-T 装置 — 標準の RJ-45 コネクタと 2 ツイストペア ケーブルを使用します。カテゴリ 3、4、または 5 のケーブルを使用できます。
- 高速ワークステーション、サーバ、ハブ、ルータ、その他のスイッチなどの 100BASE-TX 装置 — 標準の RJ-45 コネクタとカテゴリ 5 の 2 ツイストペア ケーブルまたは 4 ツイストペア ケーブルを使用します。



(注)

スイッチをワークステーション、サーバ、およびルータに接続する場合は、必ずストレートのツイストペア ケーブルを使用してください。ハブまたはその他のスイッチに接続する場合は、ツイストペア クロス ケーブルを使用する必要があります。ケーブルのピン割り当ては、[付録 B「コネクタおよびケーブル」](#)を参照してください。

10/100 ポートは、半二重、全二重、10 Mbps、または 100 Mbps を任意に組み合わせ設定することができます。また、IEEE 802.3u に準拠した速度およびデュプレックスの自動ネゴシエーションを設定することもできます。いずれの場合も、スイッチから接続装置までの最大ケーブル長は 328 フィート (100 m) です。

自動ネゴシエーションに設定した場合、ポートは接続先装置の速度とデュプレックスの設定値を検知し、ポート側の機能を接続先に通知します。接続先装置が自動ネゴシエーション機能をサポートしていれば、ポートは最良の接続（両側の装置がサポートしている最高回線速度、および接続先装置が全二重通信をサポートしている場合は全二重）になるようにネゴシエーションを実行し、その結果が自動的に設定されます。

## 10/100/1000 ポート

Catalyst 2955T-12 スイッチの 10/100/1000 アップリンク ポートには、RJ-45 コネクタとツイストペア ケーブルを使用します。このポートには、次の装置を接続できます。

- ワークステーション、ハブなどの 10BASE-T 装置 — 標準の RJ-45 コネクタとカテゴリ 3、4、または 5 の 2 ツイストペア ケーブルまたは 4 ツイストペア ケーブルを使用します。
- 高速ワークステーション、サーバ、ハブ、ルータ、その他のスイッチなどの 100BASE-TX 装置 — 標準の RJ-45 コネクタとカテゴリ 5 の 2 ツイストペア ケーブルまたは 4 ツイストペア ケーブルを使用します。
- 高速ワークステーション、サーバ、ハブ、ルータ、その他のスイッチなどの 1000BASE-T 装置 — 標準の RJ-45 コネクタとカテゴリ 5 の 4 ツイストペア ケーブルを使用します。



(注)

スイッチを 1000BASE-T 装置に接続する場合は、必ずカテゴリ 5 の 4 ツイストペア ケーブルを使用してください。



(注) スイッチをワークステーション、サーバ、およびルータに接続する場合は、必ずストレートのツイストペア ケーブルを使用してください。ハブまたはその他のスイッチに接続する場合は、ツイストペア クロス ケーブルを使用する必要があります。ケーブルのピン割り当ては、[付録 B 「コネクタおよびケーブル」](#)を参照してください。

Catalyst 2955T-12 スイッチの 10/100/1000 ポートは、半二重または全二重モードの 10 Mbps、100 Mbps で、または全二重モードの 1000 Mbps で動作するように設定することができます。また、IEEE 802.3ab に準拠した速度の自動ネゴシエーションを設定することもできます。いずれの場合も、スイッチから接続装置までの最大ケーブル長は 328 フィート (100 m) です。

## 100BASE-FX ポート

Catalyst 2955C-12 上の 100BASE-FX ポートには、50/125 ミクロンまたは 62.5/125 ミクロンの MM 光ファイバケーブルを使用します。全二重モードの場合、スイッチから接続装置までの MM 光ファイバ ケーブルの最大長は、6,562 フィート (2 km) です。

MM 接続では、[表 B-1 \(p.B-4\)](#)に記載されている MT-RJ 光ファイバパッチケーブルのいずれかを使用すると、100BASE-FX ポートを接続先装置のポートに接続することができます。[表 B-1](#) のシスコ部品番号を指定して、必要なパッチケーブルをご注文ください。

## 100BASE-LX ポート

Catalyst 2955S-12 上の 100BASE-LX ポートには、9/125 ミクロンの SM 光ファイバケーブルを使用します。スイッチから接続装置までの最大ケーブル長は 9.375 マイル (15 km) です。

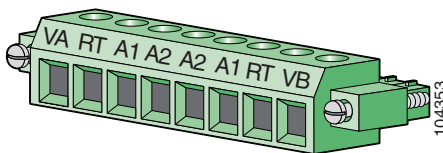
SM 接続では、[表 B-2 \(p.B-5\)](#)に記載されているコネクタのいずれかを使用します。[表 B-2](#) のシスコ部品番号を指定して、必要なコネクタをご注文ください。



## 電源およびリレー用コネクタ

電源およびリレー用コネクタは、DC 電源および設定可能なアラームとの接続をスイッチに提供します（図 2-6 を参照）。電源およびリレー用コネクタは、前面プレート上でアップリンクポートの右側にあります。

図 2-6 電源およびリレー用コネクタ



このコネクタは、差し込み式のネジ端子ブロックコネクタであり、プライマリおよびセカンダリの両方の電源装置に電源接続およびリターン接続を提供します。電源装置 A のプラスの DC 電源接続は VA のラベルが付いていて、電源装置 A のリターンは隣接する接続で RT のラベルが付いています。電源装置 B（冗長用電源装置）のプラスの DC 電源接続は VB のラベルが付いていて、電源装置 B のリターンは隣接する接続で RT のラベルが付いています。

Catalyst 2955 スイッチは、1 台または 2 台の電源装置で動作できます。デュアル電源モードの場合、スイッチは電圧の高い方の電源装置から電力を供給されます。デュアル電源モードでプライマリ電源装置が故障した場合は、代替の電源装置がスイッチに電力を供給します。



警告

電源が入ったままの状態でも電源およびリレー用コネクタの着脱を行うと、アーク放電を生じることがあります。その場合、危険場所でインストレーションを行うと爆発する危険性があります。必ず、スイッチおよびアラーム回路の電源が切断されていることを確認してください。作業を始める前に、偶発的に電源がオンになる可能性がないかどうか、周囲に危険がないかどうかを確認してください。

電源およびリレー用コネクタの非脱落型ネジがきちんと締まっていないと、コネクタが偶発的に外れた場合、アーク放電を生じることがあります。

電源およびリレー用コネクタは、2つの独立した Normally Open (NO) のアラーム リレー用のインターフェイスを提供します。これらのリレーは、環境、電源装置、およびポート ステータスの条件によるアラームでトリガーすることができます。各リレーは、外部のアラーム装置（ベルまたはライト インジケータなど）に障害信号を送信するように設定することができます。CLI（コマンドライン インターフェイス）を使用して、一方のアラーム リレーまたは両方のアラーム リレーにアラーム条件を対応付けることができます。

外部アラーム装置をリレーに接続するには、2本のリレー コンタクト線を接続して完全な電気回路にする必要があります。外部アラーム装置ごとにリレーへの接続が2つずつ必要なので、Catalyst 2955 スイッチは最大2つの外部アラーム装置をサポートします。



---

(注) アラーム リレーの設定方法については、スイッチのコンフィギュレーション ガイドを参照してください。

---

電源およびリレー用コネクタの詳細については、[付録 B「コネクタおよびケーブル」](#)を参照してください。



---

(注) 交換用の電源およびリレー用コネクタ (PWR-2955-CONNECT=) については、製品を購入された代理店にお問い合わせください。「[テクニカル サポート](#)」(p.xxv)を参照してください。

---

## コンソール ポート

スイッチを PC に接続するには、スイッチのコンソール ポートに、付属品の RJ-45/DB-9 アダプタ ケーブルを取り付けます。スイッチを端末に接続する場合は、RJ-45/DB-25 メス DTE アダプタが必要です。このアダプタが入ったキット（部品番号 ACS-DSBUASYN=）をご注文ください。コンソール ポートおよびアダプタのピン割り当てについては、「[ケーブルおよびアダプタの仕様](#)」(p.B-7)を参照してください。

**警告**

スイッチまたはネットワーク上の装置に電源が入った状態で、コンソール ケーブルの着脱を行うと、アーク放電を生じることがあります。その場合、危険場所でインストレーションを行うと爆発する危険性があります。作業を始める前に、電源が切断されていて周囲に危険性がないことを確認してください。

スイッチの動作を確認するには、インストレーションに先立って、危険性のない場所でスイッチの POST を実行します。

## LED

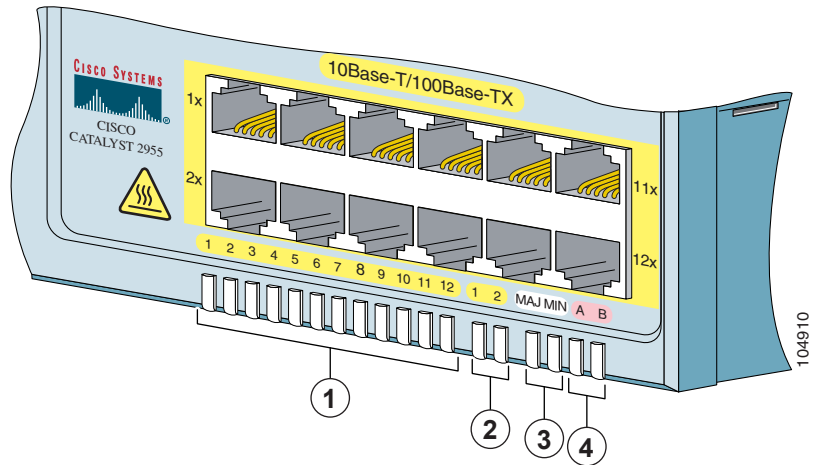
LED を使用することによって、スイッチの動作やパフォーマンスをモニタすることができます。Catalyst 2955 スwitchの LED はいずれも、前面パネルの下端にあります。スイッチを上向きに設置しても、平行に設置しても LED が見えるようになっています (図 2-7 および図 2-8 を参照)。

**(注)**

10/100 ポート ステータス LED は、ポート ステータスのみを表示します。

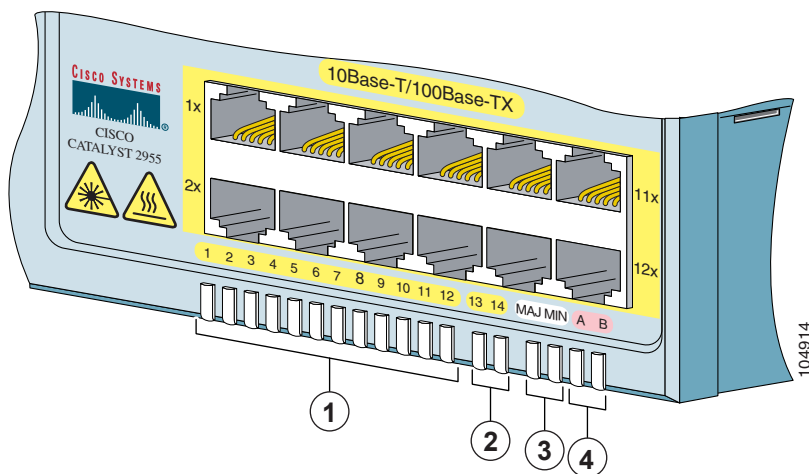
すべての LED は、GUI (グラフィカル ユーザ インターフェイス) 管理アプリケーション (複数のスイッチに対しては Network Assistant アプリケーション、1 台のスイッチに対してはデバイス マネージャ GUI) で表示できます。CLI を使用して個々のスイッチおよびスイッチ クラスタを設定およびモニタする方法については、スイッチのソフトウェア コンフィギュレーション ガイドを参照してください。

図 2-7 Catalyst 2955T-12 スイッチの LED



<b>1</b>	10/100 ポート ステータス LED	<b>3</b>	アラーム リレー LED
<b>2</b>	アップリンク ポート ステータス LED	<b>4</b>	電源装置 LED

図 2-8 Catalyst 2955C-12 および Catalyst 2955S-12 スイッチの LED



1	10/100 ポート ステータス LED	3	アラーム リレー LED
2	アップリンク ポート ステータス LED	4	電源装置 LED

## 電源ステータス LED

Catalyst 2955 スイッチは、1 台または 2 台の電源装置で動作します。電源入力装置ごとに対応する LED が装備されていて、電源装置ステータスを示しています。

スイッチがシングル電源モードで、電源装置 A のみが存在して正常に動作している場合、電源装置 B の LED はグリーンで、電源装置 A の LED がステータスを示しています。

スイッチがシングル電源モードで、電源装置 B のみが存在して正常に動作している場合、電源装置 A の LED はグリーンで、電源装置 B の LED がステータスを示しています。

デュアル電源モードの場合、スイッチは電圧の高い方の電源装置から電力を供給されます。デュアル電源モードでプライマリ電源装置が故障した場合は、代替の電源装置がスイッチに電力を供給します。

電源ステータス LED は、各電源装置に電力が供給され正常に動作しているかどうかを示しています。

表 2-1 に、LED のカラーおよび意味を示します。



(注) 電源入力 が 17 V 未満になると、電源ステータス LED にはスイッチに電力が存在しないことが示されます。電源ステータス LED に電力の存在が表示されるのは、スイッチ入力の電圧が 18.5 V 以上の場合だけです。1.5 V の差（ヒステリシス）により、電源ステータス LED が 18 V 付近の値で変動しないようになっています。

デュアル電源モードの場合、電源ステータス LED は、VA および VB の両方の電源入力についてステータスを表示します。

**表 2-1 電源ステータス LED**


カラー	システム ステータス
消灯	システムの電源がオンになっていません。
グリーン	該当するコンタクトに電力が存在します。
レッド	該当するコンタクトに電力が存在しません。

POST 実行中の電源 LED のカラーについては、「[スイッチへの電源投入と POST の実行](#)」(p.3-13) を参照してください。

## 10/100 ポート ステータス LED

10/100 ポートごとに、ポート ステータス LED（別名ポート LED）が装備されています（[図 2-7](#) および [図 2-8](#) を参照）。これらの LED は、スイッチおよび各ポートに関する情報を示します（[表 2-2](#) を参照）。

**表 2-2 10/100 ポート ステータス LED**

カラー	システム ステータス
消灯	リンクがありません。
グリーンに点灯	リンクが確立されています。
グリーンに点滅	動作中。ポートはデータを送受信中です。
グリーンとオレンジに交互に点滅	リンク障害が発生しています。エラー フレームが接続に影響を与えている可能性があります。過度のコリジョン、CRC エラー、アライメント / ジャババー エラーなどがモニタされ、リンク障害が表示されています。
オレンジに点灯	ポートは転送を行っていません。管理操作、アドレス違反、または Spanning-Tree Protocol (STP; スパニングツリープロトコル) によってポートがディセーブルになっています。
	 <p>(注) ポートを再設定すると、STP がスイッチでのループの検出を実行します。その間、ポート LED はオレンジに点灯します（最大 30 秒）。</p>

## アップリンク ポート ステータス LED

Catalyst 2955 スイッチでは、ポート ステータス LED の右側に 2 つのアップリンク ポート ステータス LED があります。Catalyst 2955C-12 および 2955S-12 スイッチでは、光ファイバ アップリンク ポート ステータス LED に 13 および 14 というラベルが付いています（[図 2-8](#) を参照）。Catalyst 2955T-12 では、10/100/1000BASE-T アップリンク ポートに 1 および 2 というラベルが付いています（[図 2-7](#) を参照）。

これらの LED は、スイッチおよび各アップリンク ポートに関する情報を示します（[表 2-3](#)、[表 2-4](#)、および [表 2-5](#) を参照）。



(注) アップリンク ポート ステータス LED は、POST 実行時のシステム情報およびステータス情報を示します。POST 実行時におけるアップリンク ポート LED のカラーの詳細については、「スイッチへの電源投入と POST の実行」(p.3-13) を参照してください。

**表 2-3 10/100/1000BASE-T アップリンク ポート ステータス LED**

カラー	システム ステータス
消灯	リンクがありません。
グリーンに点灯	リンクが確立されています。
グリーンに点滅	動作中。ポートはデータを送受信中です。
グリーンとオレンジが交互に点滅	リンクに障害が発生しています。
オレンジに点灯	リンクがディセーブルになっています。

**表 2-4 100BASE-FX MM アップリンク ポート ステータス LED**

カラー	システム ステータス
消灯	リンクがありません。
グリーンに点灯	リンクが確立されています。
グリーンに点滅	動作中。ポートはデータを送受信中です。
グリーンとオレンジが交互に点滅	リンクに障害が発生しています。
オレンジに点灯	リンクがディセーブルになっています。



表 2-5 100BASE-LX SM アップリンク ポート ステータス LED

カラー	システム ステータス
消灯	リンクがありません。
グリーンに点灯	リンクが確立されています。
グリーンに点滅	動作中。ポートはデータを送受信中です。
グリーンとオレンジ が交互に点滅	リンクに障害が発生しています。
オレンジに点灯	リンクがディセーブルになっています。

## アラーム リレー LED

アップリンク ポート ステータス LED の右側に、MAJ および MIN というラベルの付いた 2 つのアラーム リレー LED があります (図 2-7 および図 2-8 を参照)。これらの LED は、メジャーおよびマイナーのシステム アラームの状態を示します。

Cisco IOS の CLI を使用して、メジャーおよびマイナー LED を、リレー コンタクトを稼働し、接続先の外部アラーム装置の状態がメジャー (MAJ) またはマイナー (MIN) LED のアラーム状態をミラーリングするように設定することができます。また、CLI を使用して、一方または両方のリレーにポート ステータスアラームおよびグローバル ステータス アラームを対応づけることもできます。詳細については、スイッチのソフトウェア コンフィギュレーション ガイドを参照してください。



警告

スイッチ リレーの定格は、限界電圧の 30 VDC で 1 A、限界電圧の 125 VAC で 0.3 A です。危険環境でこれらの限界値を超えると危険です。

フィールド側の電源を入れた状態でリレー線の着脱を行うと、アーク放電を生じることがあります。その場合、危険場所でインストレーションを行うと爆発する危険性があります。作業を始める前に、電源が切断されていて周囲に危険性がないことを確認してください。

表 2-6 に、LED のカラーおよび意味を示します。

**表 2-6 アラーム リレー LED**

LED	カラー	意味
メジャーリレー (MAJ)	消灯	環境温度は正常範囲内です。または、接続されたアラームに障害はありません。
	レッド	環境温度が最大スレッショールドを超えています。または、接続されたアラームに障害があります。
マイナーリレー (MIN)	消灯	接続されたアラームに障害はありません。
	レッド	接続されたアラームに障害があります。



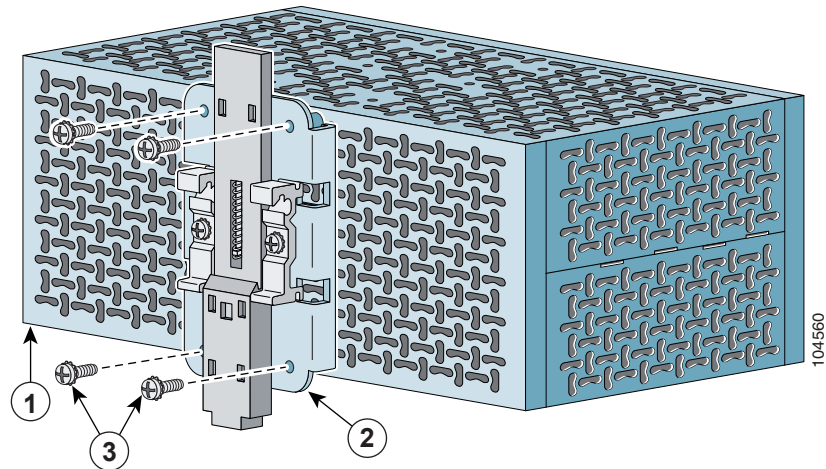
(注) マイナー LED はデフォルトではディセーブルです。

## 背面パネル

Catalyst 2955 スイッチの背面パネルには、DIN レール取り付けクリップアセンブリが装備されています（図 2-9 を参照）。

スイッチの出荷時には、背面パネルにクリップアセンブリが取り付けられた状態になっており、平行マウントに対応します。

図 2-9 Catalyst2955 スイッチの背面パネル



1	Catalyst 2955 スイッチの背面パネル	3	DIN レール クリップ取り付け用ネジ
2	DIN レール クリップ アセンブリ		

## Catalyst 2955 スイッチの電源コンバータ

Catalyst 2955 スイッチは、危険性のない環境でオプションの AC/DC 電源コンバータを使用できます。電源コンバータ (PWR-2955-AC=) は、24 VDC の電源を 1 台または 2 台の Catalyst 2955 スイッチに 3 つのモード (AC 電圧 [公称] 110 V、AC 電圧 [公称] 220 V、および最大 375 VDC [表 3-2 を参照]) で供給することができます。電源コンバータは、DIN レールに取り付けられます。

電源コンバータの設置および接続手順については、「[電源コンバータへのスイッチの接続](#)」(p.3-30) を参照してください。



注意

電源コンバータは、危険性のない場所で設置する場合にのみ使用してください。

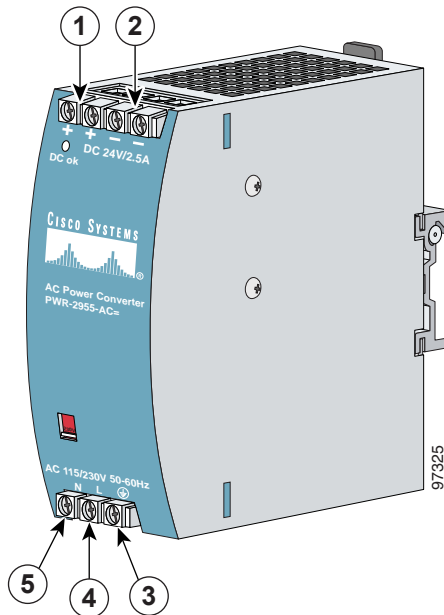


(注)

電源コンバータ (PWR-2955-AC=) は、製品とは別売となります。

図 2-10 に、電源コンバータを示します。

図 2-10 Catalyst 2955 スイッチの AC/DC 電源コンバータ



1	DC プラス接続	4	AC 回線接続
2	DC リターン接続	5	AC 中性接続
3	アース接続		

## 管理オプション

Catalyst 2955 スイッチには、次の管理オプションを使用できます。

- Network Assistant

Cisco Network Assistant は、中小企業の LAN 向けに最適化された PC ベースのネットワーク管理 GUI アプリケーションです。Cisco Network Assistant は、Catalyst 2950 スイッチから Catalyst 4506 スイッチまでの範囲のシスコ製スイッチを集中管理する機能を提供します。ユーザはスイッチ クラスタまたはスタンドアロンのスイッチの設定および管理をユーザフレンドリな GUI から行うことができます。Cisco Network Assistant は、無料で利用することができます。次の URL からダウンロードできるようになっています。

<http://www.cisco.com/go/networkassistant>

Network Assistant アプリケーションの起動に関する詳細については、Cisco.com で提供されている『*Getting Started with Cisco Network Assistant*』を参照してください。

- デバイス マネージャ

スイッチ メモリにあるデバイス マネージャを使用して、単独およびスタンドアロンのスイッチを管理できます。デバイス マネージャは使いやすい Web インターフェイスであり、設定が簡単で、モニタ機能を提供します。ネットワークのどこからでも Web ブラウザを介して、デバイス マネージャにアクセスできます。詳細については、デバイス マネージャのオンライン ヘルプを参照してください。

- Cisco IOS CLI

コマンドラインに入力する方法でスイッチを管理できます。CLI にアクセスするには、スイッチのコンソール ポートに、PC または端末を直接接続します。スイッチがネットワークに接続されている場合は、Telnet 接続を使用してリモートでスイッチを管理することもできます。詳細については、各スイッチ コマンドリファレンスを参照してください。

- CiscoView アプリケーション

CiscoView 装置管理アプリケーションでは、コンフィギュレーション パラメータを設定したり、スイッチのステータスおよびパフォーマンスの情報を表示したりできます。このアプリケーションは、独立したアプリケーションとして、または SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) ネットワーク管理プラットフォームの一部として、スイッチとは別にご購入ください。詳細については、CiscoView アプリケーションに付属のマニュアルを参照してください。

- **SNMP ネットワーク管理**  
HP OpenView や SunNet Manager などのプラットフォームが稼働している SNMP 対応管理ステーションを使用してスイッチを管理することができます。このスイッチは MIB エクステンションと MIB II のすべて、IEEE 802.1D ブリッジ MIB、および 4 つの Remote Monitoring (RMON) グループをサポートしています。詳細については、SNMP アプリケーションに付属のマニュアルを参照してください。
- **Cisco Intelligence Engine 2100 (IE2100)**
- **Cisco IE2100 シリーズ Configuration Registrar** は、スイッチ ソフトウェアに組み込まれた Cisco Networking Services (CNS) エージェントと連携するネットワーク管理デバイスです。スイッチ固有のコンフィギュレーション変更を生成し、それらをスイッチに送信し、コンフィギュレーション変更を実行し、その結果をロギングすることにより、初期コンフィギュレーションおよびコンフィギュレーション アップデートを自動的に行うことができます。詳細については、スイッチのソフトウェア コンフィギュレーション ガイドおよびご使用のアプリケーションに付属のマニュアルを参照してください。

